

## 『しゃべれどもしゃべれども』

佐藤多佳子/著  
新潮社 913.6/サ

落語家は、しゃべりのプロ。  
落語家の若者、三つ葉のもとに、しゃべりが上手になりたい・・・と悩む人たちが助けを求めてやってきます。話し方教室を開くことになった三つ葉ですが・・・。

映画化され、DVDも出ています。  
映画ではTOKIOの国分太一主演で、落語家の三つ葉役を熱演しています。モデルの香里奈も、口下手な美人役で出演。

読んだ後は、なんだか元気になれます。

## 『女落語家の「二つ目」修業』

川柳つくし/著  
双葉社 779.1/カ

表紙は着物姿の川柳つくしさん。女落語家。ニコニコ笑顔に引き込まれて、思わず手に取った一冊です。  
しかし、いったい「二つ目」ってなに？  
という方はこちら！→

「前座」のうちは、寄席に毎日通い、師匠の着替えを手伝って雑用をこなし、数日に一回ほど前座として落語をさせてもらう日々。また、寄席のない日は、師匠の家において用事をする、というような休みなしの毎日を送るそう。

それが、「二つ目」に昇進すると一人前の落語家として認められ、自分の演じたい噺をすることができるのです。

2000年に「二つ目」に昇進した川柳つくしさんの、落語に邁進する日々がつづられています。

先輩落語家の「二つ目」時代を聞くインタビューも入っていて、これもおもしろいです。

## 『落語家になりたい！』

演じてよし観てよしまるごと初心者ガイド』  
春風亭 正朝/監修  
河出書房新社 779.1/ラ

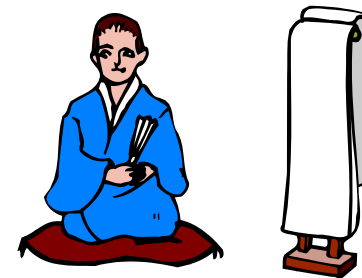
聞くだけでは満足できない！自分で落語をやってみよう！という方には、この本がおすすめです。

写真入りの落語講座のテキストが、「寿限無」「時そば」「たらちね」の三本立てで入っています。  
このまま覚えれば、人前で披露できますよ。それから、まずは形から入って・・・、落語家としての「オリジナルネーム」の付け方や、これぞ落語！という雰囲気を出してくれる「寄席文字」の書き方など。ぜひチャレンジしてみてください！！

## 『ふたりでひとり』

上方落語「胴切り」より』  
桂文我/噺 石井聖岳/絵  
フェリシモ 913/カ

三重県松阪生まれの落語家、桂文我さんの噺が本になりました。これは、上方落語「胴切り」を絵本にしたもの。  
風呂上りの一人の男が、侍に刀で斬られて、腰から上と下が真っ二つに。  
ところがこの男、足は足、胴は胴でそれぞれ元気に動いています。  
おまけに足は足の仕事を、胴は胴の仕事をして2倍の稼ぎを得ようなんて考えます。  
なんともシュールなおはなしです。  
人気の絵本作家、石井聖岳さんの絵がよりいっそう世界観を盛り上げています。



RAKUGO

落語

東京の落語界での昇進システムは、

- ①「前座」…修業期間。  
ぜんざ
- ②「二つ目」…一人前の落語家  
ふたつめ
- ③「真打」…寄席でトリを任せられる。  
しんうち  
弟子を取れる。

という流れになっているようだ。  
(参考：『女落語家の「二つ目」修業』  
『落語のひみつ』より)



いせ<sup>えび</sup>ABちゃん

そのほか・・・

『落語の名台詞 100  
ちょっと小粋な言葉がいっぱい！』  
三遊亭道楽/著 PHP 研究所 779.1/サ  
『師匠、五代目文枝へ』  
桂三枝/著 ヨシモトブックス  
779.1/カ  
『江戸のこぼなし』  
山住昭文/著 筑摩書房 913/ヤ  
『落ナビ』  
落語ナビゲート隊/編著 文芸社  
779.1/オ  
『落語ファン倶楽部』  
笑芸人・高田文夫/編  
白夜書房 779.1/ラ  
(※付録のCD もいっしょに貸出できます！)

『ちゃっくりがきいふ』  
桂文我/話 梶山俊夫/絵  
福音館書店 E/チ  
『美しく青き道頓堀川』  
桂三枝/文 黒田征太郎/絵  
アートン E/ウ

このほかにも、「ティーンズの本棚」には中高生のみなさんにおすすめの本を集めています。  
勉強の合間にぜひお立ち寄りくださいね。

## 『落語のひみつ』

桂平治/案内人 大友浩/著  
阿部伸二/絵  
芸術新聞社 779.1/カ

落語のことはぜんぜん分からないというあなたも、落語ツウのあなたでも楽しめる一冊。  
落語によく登場する「江戸」のなりわい(職業)や、江戸の住まいなども特集していて、豆知識が豊富。軽い読み物として楽しめます。  
途中にはさむコラムにも、あっとおどろく落語界のひみつがつまっています。



# Voice

2012/秋 #1



発行：伊勢市立伊勢図書館

伊勢市八日市場町 13-35

TEL.0596-21-0077

中高生版としょかん News

<http://iselib.city.ise.mie.jp/>

こちらは「お便りBOX」に投函いただいたおすすめの本を紹介するコーナーです。

## 『サルが食いかけてエサを捨てる理由（わけ）』

野村潤一郎/著 筑摩書房（ちくまプリマー新書） 468/ノ

### ★投稿者コメント：

幸福とは何か、人はどの位馬鹿かよくわかる。

このちくまプリマー新書は、児童書コーナー入って左側の回転棚に置いてあります。

この回転棚には、10代から読める新書のシリーズが収めてあるのですが、本の背のタイトルを眺めているだけで、思わず手がのびそうな、おもしろい本がたくさんあります。

投稿者さんのおすすめのこの本も、タイトルがすごく気になりますよね。どんどん読み進められますが、生き物と人間の驚きのひみつが詰まっています。読みごたえ十分です。

みなさんも、「この本おもしろかったよ！」という本がありましたら、ティーンズの本棚にBOXがありますので、ぜひ投稿してくださいね！「Voice」にて紹介します。



今年の夏休みもあっという間に終わり、もうそろそろ秋ですね。さて、今回は落語特集です。ここ伊勢でも、あちらこちらで寄席が開催されています。みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか？

落語はちょっと難しいなあ、という方！一度、川端誠さんの「落語絵本」シリーズを読んでみてください。落語の印象がガラリと変わりますよ。有名な「じゅげむ」や、「まんじゅうこわい」も落語。試験勉強の合間にちょっと笑って、リフレッシュしてみてもいいのでは？

## 『いちがんこく』

川端誠/作  
クレヨンハウス E/イ

「落語絵本」のシリーズ。江戸時代にももしもテレビがあったら！？バラエティ番組のネタをさがす、テレビ局の人たち。そんな時、一つ目小僧を見たという人の話を聞きつけて、取材に行くことになりました。すると、一つ目小僧ではなく、一つ目の女の子に出会いました。これはチャンスとばかり、一つ目小娘を「テレビに出ておくれ」と追いかけますが、それを見ていた村人たちに逆に追いかけるはめに……。ハッとさせられる結末です。



川端誠さんの「落語絵本」シリーズは、全部で15冊あります。今この季節にぴったりなのは、『めぐろのさんま』今年6月に出た『みょうがやど』もおすすめ。

ほかにもおすすめ本いろいろあります。